



室伏 稔 (むろふし みのもる)
伊藤忠商事株式会社 相談役
社団法人日本貿易会 名誉顧問
日豪経済委員会 副会長

1. はじめに

日本と豪州は長く資源と工業製品の補完関係をベースに発展してきた。そして、昨年12月、安倍首相とハワード首相の電話会談で、日豪経済連携協定（EPA）の交渉開始が合意され、本年3月、ハワード首相訪日時、首脳会談で、4月にキャンベラで第1回交渉が開始されることが正式に決まった。今から50年前の1957年に岸信介総理・外相とマッキュアン貿易相との間で日豪通商条約の締結という先見性のある決断が行われ、岸総理直系の安倍首相の下でEPAの交渉が開始されることは極めて象徴的である。

日豪は経済以外でもイラク復興での協力、アジアでのPKO活動や自然災害での協力、テロ対策協力、東アジアサミットへの豪州の参加、昨年からの閣僚級に格上げされた日米豪の戦略対話等に見られるように、政治・安全保障の分野でも強固な関係を築いている。そして、本年3月、ハワード首相と安倍首相が署名した「安全保障協力に関する日豪共同宣言」は両国の安全保障分野の協力をさらに強化するものであり、EPAの交渉開始と合わせ、現在、日豪関係が両国の長い歴史の中で最も良好な関係にあることを示している。

私は1963年に設立された「日豪経済委員会」で、1995年から2000年まで「日豪ビジネスフォーラム」の委員長として、豪州製品の対日市場参入の支援や第三国での日豪協力を携わり、2000年からは同委員会の副会長として日豪経済関係の強化に努めている。また、2001年から開催された官民合同の「日豪会議」に共同議長として関わってきた。

今回の豪州特集では、そうした私の日豪関係における対外活動を踏まえ、今後の日豪経済関係の課題と展望について触れてみたい。

2. 日豪関係の重要性

2006年の豪州から日本への輸出は3.2兆円、日本から豪州への輸出は1.5兆円である。日本にとって豪州は中国、米国等に次ぐ主要な輸入相手国であり、豪州にとって、日本は輸出で第1位、輸入で第3位、貿易総額で15%を占める最大の貿易相手国である。ちなみ

に、同年の中国との貿易総額は日本に次いで第2位（14%）となっており、近年、豪中貿易の増加傾向が顕著である。

日本の2006年の対豪輸入品目は石炭（28%）、鉄鉱石（13%）、LNG（14%）、牛肉（6%）、農林水産品（19%）など大部分が資源であり、日本の豪州資源に対する依存度は、特に石炭と鉄鉱石が5割を超えていることは承知のとおりである。また、農林水産品についても、同年の日本の豪州からの輸入は14%を占め、国別では米国、中国に次ぐ輸入相手国で、牛肉、乳製品、小麦、砂糖等、多くを豪州に依存している。

3. 日豪経済関係強化のための活動

日豪の経済発展を支えてきた日豪経済委員会は1961年3月、当時の東京商工会議所永野重雄副会頭（富士製鐵社長）を団長とする対豪通商親善使節団を経て、1963年2月に設立された。豪州側もこれより先、1962年8月に豪日経済委員会を設立し、1963年5月に東京で第1回合同会議を開催して以来、毎年日豪交互に開催し、昨年のシドニー会議まで44年にわたり合同会議を重ねている。

日豪の経済関係は1960年代の高度成長期以降、資源貿易を核に発展してきたが、その後の日本経済の成熟化に伴い、日豪関係は良好ではあるが、問題がないのが問題とされてきた。

こうした希薄化する日豪関係を活性化させたいという豪州側の強い期待感を背景に、99年に行われた故小渕首相とハワード首相との首脳会談で「日豪会議」の開催が合意された。日豪会議とは、両国外務省の主催で、両国の政・官・財・学、マスメディアを代表する有識者が一堂に会し、幅広い分野で21世紀の新しい日豪関係のあり方について話し合うアドホックの会議である。同会議は2001年に「日豪21世紀会議」としてシドニーで開催されて以来、昨年の東京会議まで4回開催され、私はそのうち3回、豪州側議長と共に共同議長を務めた。これまでの日豪会議での提言には、日豪経済関係の緊密化、日豪交流年事業の実施、安全保障対話の強化等があり、最近では東アジアでの中国のプレゼンス



モーガン前豪日経済委員会委員長と
日豪交流年イベント「日本の祭りin Sydney」で

拡大および東アジア経済連携への対応、安全保障分野での協力範囲の拡大等多岐にわたる議論を行ってきた。

4. 日豪FTA・EPA

日豪FTA・EPAは2001年の「日豪21世紀会議」の提言を受け、同年12月に日豪・豪日経済委員会がスタディ・グループを組成し、ヒュー・モーガン氏と私がそれぞれの委員長となり、2002年5月の小泉首相訪豪の直前に両首相宛てに「FTAを含め包括的な経済連携協定の締結に向け、早急に検討を開始するよう」提言したのが発端である。モーガン氏は昨年の合同会議まで7年半にわたり豪日経済委員会委員長として日豪経済関係強化のために尽力をしてきた最大の功労者の一人である。

その後、2003年7月にハワード首相が訪日し、小泉首相との首脳会談で、「日豪貿易経済枠組み文書」が署名された。この貿易・投資の自由化の得失を検討する2年間の政府間共同研究を経て、2005年4月の首脳会談の合意に基づき、「日豪経済関係強化のための共同研究」が開始され、昨年12月に共同研究を完了、報告書がとりまとめられた。2002年の提言書から5年を経て交渉が開始されることになったわけである。

この間、両経済委員会は、両首相宛の提言を含め、都度、包括的EPAを求める共同声明を発表してきた。また、昨年9月、「日豪経済連携協定の早期交渉開始を求める」提言を、日本経済団体連合会と日本貿易会、および日本商工会議

所が連名でとりまとめている。

5. 日豪EPAの意義、課題および展望

日豪EPAは、相互補完的な二国間経済関係をさらに強化、発展させ、また、両国がアジア太平洋地域における経済連携や安定化に向けた協力関係を構築するのに資する。

日豪EPAは、日本にとって、自動車等の鉱工業品関税の引き下げや対豪投資無審査枠の拡大による投資、サービス貿易の拡大等の貿易・投資環境のさらなる改善、他国との競争上の不利の回避（豪米、豪タイFTA）等のメリットがある一方、日豪間では資源・エネルギーの安定確保という側面が重要である。

資源・エネルギーは中国を中心とするアジアの需要の急増により、豪州は日本にとり今後ともカントリーリスクの少ない資源供給国として、死活的に重要な意味を持ち続けるが、EPAの締結で戦略的なパートナーシップを構築することは、安定した資源確保および資源の安全保障につながる。過去、日豪は双方の努力で安定した資源供給体制を確立してきたが、中国を中心とする資源エネルギー確保の動きを考えた場合、日本は他に劣後することなく、豪州との戦略的な信頼関係を基礎とした資源の安定供給を求めるのが望ましい。

2005年4月、ハワード首相が中国とFTAの交渉に合意し、本年9月に豪州で予定されているAPEC会合時、両国首脳間でFTAが締結される可能性もあり、豪中関係が一層緊密化の度を深めていくのは間違いない。

さらに、日豪は経済連携を基礎に、一段と緊密な戦略的なパートナーシップを構築することにより、1989年のAPECの設立で日豪が重要な役割を果たしたように、ファンダメンタルな価値観を共有する国同士として、東アジアの経済連携や安定化に大きな役割を果たし得る。豪州にとって、アジア太平洋地域における最良のパートナー（ハワード首相）である日本は東アジア政策の基本であり、日本も豪州の期待に応え、日豪関係を同地域の経済および安全保障戦略の中核に据えることが有益である。その意味で、

日豪間のEPA協議の推進や安全保障の協力強化は大変意義深い。

一方、日豪のEPAには農業というセンシティブな分野がある。そもそもEPA・FTAは日本の構造改革を促進し、日本の農業の効率改善による輸出への刺激にもなり、食料の安全保障や安定供給につながり、また、消費者にとってもメリットがあるとされる。しかしながら一方で、日豪のEPAは牛肉、乳製品、小麦、砂糖等、国内の農業に壊滅的な打撃を与え、日本の農業改革に悪影響を及ぼし、米国やカナダとのFTAの交渉につながる等の強い反対意見がある。今回の政府間共同研究の報告書でも、日豪間の交渉ではあらゆる品目と課題が取り上げられる一方、センシティブな品目については、段階的削減、除外、再協議を含む選択肢の必要性が指摘されている。

FTAでは、一般に最低90%の自由化というWTOとの整合性を実現する必要があり、豪州は、FTAで除外を認めたのは砂糖のみ（米豪FTA）であったように、最初から除外品目を設けない基本姿勢を堅持するとみられるが、一方で、農業の自由化は日本の構造改革に資するものでなければならず、双方がそれぞれの事情を勘案し、現実的アプローチを取ることが必要になる。日本も長い目で見れば、WTOの交渉や日本の農業改革の進展で、徐々に柔軟性が出てくる可能性もあり、豪州には柔軟な、懐の深い対応を期待したい。一方で、日本も農業分野で積極的に豪州とのパートナーシップを考えるべきではないかと思う。

6. おわりに

日豪EPAの交渉は4月から開始されるが、日豪共に今年は重要な選挙が予定されている。日本は4月の統一地方選挙、夏の参議院選挙、豪州も9月のAPEC後に連邦総選挙があり、交渉はその政治動向とも関連する。短期間に交渉がまとまるとは思わないが、日豪両国政府が知恵を絞り、適切な着地点を求め、この先50年を展望した強固な日豪関係の基盤となる協定ができることを望みたい。

UF
TC